



かたしな

議会だより



CONTENTS

| | |
|------------------------------|---------|
| ◆ 第6回定例会（12月議会）で決まったこと | 2 ～ 3 |
| ◆ 一般質問 | 4 ～ 6 |
| ◆ 常任委員会 | 7 ～ 10 |
| ◆ 常任委員会行政視察報告 | 11 ～ 13 |
| ◆ 中学生議会 | 14 ～ 17 |
| ◆ 話のたね（片品村猟友会）・ようこそ有権者 | 18 |
| ◆ 村内要望箇所現地視察 | 19 |
| ◆ 議会活動日誌 | 20 |

12月定例会で決まったこと

令和7年第6回片品村議会定例会（12月議会）を、12月5日～12日までの8日間にわたり開催しました。条例の一部改正、協議、令和7年度一般会計及び3特別会計の補正予算等の議案が提案され、いずれも全員賛成で可決されました。

条例の一部改正

条例

★片品村社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正

体育施設の附属設備及び備品消耗品等の使用料について規定することにより改正するもの

協 議

協議

★群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議について

群馬県市町村総合事務組合の組織団体の変更により、地方自治法の定めにより議会の議決を求めるもの

★群馬県市町村総合事務組合の災害弔慰金の支給等に関する事務に係る共同処理の取り止めに伴う財産処分に関する協議について

災害弔慰金の支給等に関する事務の共同処理を取り止めることに伴い、自然災害救助基金について財産処分を行う必要があるため協議をするもの

★群馬県市町村公平委員会共同設置規約の変更に関する協議について

同委員会を共同設置する地方公共団体の名称が「太田市外三町広域清掃組合」から「太田市外三町清掃斎場組合」に変更し、また「みどり市」が加入するため、規約を変更するため協議をするもの

★利根沼田地域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定について

利根沼田地域定住自立圏の形成に関する協定書の一部を変更するための協議をするもの

締 結

締結

●工事請負契約の締結について

- 契約の目的 村道鎌田太田向線 小川橋 橋梁補修工事
- 契約の方法 指名競争入札による契約
- 契約金額 62,150,000 円
- 契約の相手方 群馬県利根郡片品村大字須賀川 7-1 番地
角田建設工業 株式会社
代表取締役 角田 恵子
- 工 期 契約の日から令和8年3月31日まで



陳情審議結果

1 2 月定例会において審議された陳情は、下記のとおり決定しました。

| 受 理 年月日 | 件 名 | 陳 情 者 | 付託委員会 | 審議結果 |
|---------------------|----------------------------------|--|---------------|------|
| 令和 7 年 11 月 17 日 | (件名) 「食料自給率向上自治体宣言」 を求める陳情 | 群馬県沼田市利根町平川1707 利根沼田農民連 代表 吉野 浩造 | 産業民教 常任委員会 | 不採択 |

詳細

食料自給率向上を政府の責務とする点は妥当だが、当村の農業が後継者不足や農家数減少という課題を抱えており、「食料自給率向上自治体宣言」への農家の賛同が得られるか疑問が残るとして不採択としました。

●一般会計補正予算（第4号）

| 歳入歳出補正前 | 補 正 額 | 補 正 後 |
|-------------------|--------------|----------------|
| 45 億 1,702 万 5 千円 | 8,396 万 6 千円 | 46 億 99 万 1 千円 |

主な歳入

| | | |
|---------|------------------|------------------------|
| 地方交付税 | 4 億 2,363 万 3 千円 | 普通交付税の増額 |
| 国庫支出金 | 30 万 9 千円 | 子ども・子育て支援金事業費事業補助金等の増額 |
| 県 支 出 金 | 49 万 9 千円 | 地域振興調整費補助金の増額 |
| 財 産 収 入 | 566 万 4 千円 | 各基金の預金利子等による増額 |

主な歳出

| | | |
|--------|--------------|-------------------|
| 総 務 費 | 5,371 万 8 千円 | 片品村生活支援対策事業の増額ほか |
| 衛 生 費 | 543 万 3 千円 | 環境整備事業の増額ほか |
| 農林水産業費 | 518 万 7 千円 | 森林環境譲与税基金積立金の増額ほか |
| 教 育 費 | 824 万 4 千円 | 公共施設周辺の除雪委託費の増額ほか |

●特別会計補正予算

| 会 計 名 | 歳入歳出補正前 | 補正額 | 補 正 後 |
|------------------|----------------|------------|----------------|
| 国民健康保険特別会計（第2号） | 7 億 480 万 5 千円 | 121 万 9 千円 | 7 億 602 万 4 千円 |
| 介護保険特別会計（第2号） | 7 億 576 万 4 千円 | 133 万円 | 7 億 709 万 4 千円 |
| 後期高齢者医療特別会計（第2号） | 7,995 万 4 千円 | 3 万 3 千円 | 7,998 万 7 千円 |

村政を問う！

一般質問



星野 吉弥 議員

国の交付金・重点支援
地方交付金制度について

ポイント」による給付を中心に実施しましたが、国の補正予算決定が秋頃となり事業開始が年末となったため、年度内での利用が困難でした。

このため、ポイントの使用期限を翌年度末まで延長し、村民の皆さまに確実に支援を活用していただくことを優先して予算を繰り越しました。

本村においては、令和5年度の本臨時交付金を活用し、片品村民生活応援対策事業をはじめ、複数の支援事業を実施してきましたが、事業の多くが令和6年度に予算執行となることから、繰越処理を行ったと伺っています。

そこで、次の点について伺います。

問 令和5年度事業を令和6年度へ繰り越した理由について

答 (村長)

物価高騰の影響を受けやすい低所得世帯へ迅速に支援するため、「おぜだっペイ

問 各事業の現在の進捗状況について

答 (村長)

令和6年度事業で繰り越しているのは、定額減税補足給付金の不足額給付のみで、令和7年度中の現金支給完了を予定しています。



おぜだっペイアプリ

星野吉弥議員

国は、今回補正予算で「重点支援地方交付金」に2兆円(うち4千億円は食料品高騰対策の特別枠)更に子供一人2万円給付の「子育て応援手当」に4千億円計上とのこと。今回も「12月8日より「おぜだっペイ」第一次村民限定が始まりますが令和5年度実績では対象村民4,010人に対し、2,922件(人口比72.8%)の利用で、なんと1,088人(人口比27.2%)の方は経済効果を受けなかった(受けられなかった)とも捉えられる数字です。

【再質問】

この数字をどのように捉え、今後本事業を村民に公平的に進めていくかお伺いします。

答 (村長)

ご指摘のとおり、今回も村民の約3割の方が恩恵を受けられないことが見込まれる状況です。今回のキャンペーンには間に合いませんが、今後は全村民へのポイント付与や冬のキャンペーンの継続、村内店舗と連携したキャンペーンを検討し、地域経済の活性化を図

テーマ

○国の交付金・地方交付金について
○人工芝グラウンド造成事業について

っていきいたいと考えます。開始時期も含め、周知方法を見直し、より分かりやすく丁寧に周知すること、これからの取り組みについて、次の機会には多角的に検討を進めてまいります。全村民が公平に支援を受けられる機会の確保と、支援を必要とする方へ確実に行き届く制度づくりを目指し、事業を進めてまいります。

人工芝グラウンドの造成
取組について

問 令和4年6月議会での人工芝グラウンド提案質問や、令和6年12月議会での土出グラウンド完成時期に関する質問と併せて、他地区への造成要望も取り上げてきました。これらを踏まえ、今後の他地区への造成について検討しているのか伺います。

答 (村長)

土出人工芝グラウンドは、スポーツ活動を通じた健康増進や地域交流の拠点として活用されているほか、合

星野吉弥議員

本質問の趣旨は、その経済に携わる業種の活性化を支援する意味合いを込めています。衰退する前に希望を与えることも地域公平性に重要と考えます。村の持続的観光振興・地域経済の下支えのためにも継続的な検討努力をお願いします。



完成した土出グラウンド

村政を問う！

一般質問



萩原 正信 議員

空き家解体補助金交付要綱の制定について

問 近年、村内各地区に適切な管理が行われていない多くの空き家があり、防災、衛生、景観等で地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしています。これらの空き家を、すみやかに解体してもらうためにも空き家解体補助金交付要綱を制定し、補助金を活用して解体を進めていただきたい。

答（村長）

空き家解体を支援する補助金制度は、空き家の所有者が解体を行いやすくするため、解体費用の一部を補

助する制度です。近隣自治体でも導入されている事例があり、これらを参考にしながら、片品村の地域実情に合った内容を検討していきたいながら、空き家問題への対応として、補助金制度の整備を進めていきます。

萩原正信議員

国・群馬県でも「空き家対策総合支援事業」として、空き家の管理、活用、解体に関するさまざまな支援策を実施しています。これらの支援を活用し、環境整備が進むことを期待しています。



環境整備が求められる空き家問題



片品村議会議員の報酬について、片品村特別職報酬等審議会での開催を求めます

問 令和5年12月18日付の片品村特別職報酬等審議会の答申を受け、令和6年第2回定例会において、議員定数が次回選挙から「9人」に改正されることが決定しました。このため、議員報酬について審議会の開催を求めます。

答（村長）

令和5年に開催された片品村特別職報酬等審議会では、常勤特別職の給与が低水準であるため引き上げが望ましいとの答申を受け、近隣町村の状況を考慮した上で、議会の議決により答申より低い額で決定されました。

また、同答申では、片品村議会議員の報酬について、議員定数に関する方針が示され、今後見込まれる議員数をもって、必要に応じ審議会を開催すべきとの答申がありました。議会議員定数削減が決定したため、議員報酬の見直しが必要となり、特別職報酬等審議会の開催を検討したいと考えています。

萩原正信議員

昨年11月に開催された第68回町村議会議長全国大会では「議員のなり手不足対

策」・「低額な議員報酬の改善」・「地方議会議員の厚生年金加入」などを国に要望しました。

また、群馬県町村議長会でも同月に国への要望を行い、審議会委員の選任や議会側の意見陳述の機会を設けるよう、群馬県町村会長に要請しました。これにより、片品村議会の環境整備がなされ、次世代の方々が議員として積極的に出馬していただけることを期待しています。

テーマ

○ 空き家解体補助金交付について
○ 片品村議員の報酬について



町村議会議長全国大会

村政を問う！

一般質問



小柳 紀一 議員

村内に出没する熊の状況と対策について

問 当村における最近の熊による被害状況について、被害の発生件数（地区別捕獲頭数）や主な被害内容（農作物被害、人身事故、物的被害など）を伺います。また村内に出没する熊の今後の対策について伺います。

答（村長）

片品村では、熊の出没による農作物被害や施設破壊が深刻な問題となっております。

主にトウモロコシ、トマト、特にリングゴについては実だけに限らず枝割（えだわり）被害が発生している状況であります。人身被害は4月の戸倉地区で1件のみですが、農作物への影響は大きいです。

村では、有害鳥獣村内巡視追い払いを3名に委託しているほか熊の捕獲対策を進めております。今年の捕獲頭数は87頭で、昨年の45頭を大きく上回っています。今後は「有害鳥獣出沒対応マニュアル」を策定し、

R7年4月からの各地区の熊の捕獲数

| | | | |
|----|-----|----|-----|
| 1区 | 26頭 | 5区 | 15頭 |
| 2区 | 3頭 | 6区 | 9頭 |
| 3区 | 15頭 | 7区 | 8頭 |
| 4区 | 10頭 | 8区 | 1頭 |
| | | 計 | 87頭 |



荒らされたトウモロコシ畑

猟友会や警察と連携して、情報発信システムを整備する予定です。迅速にSNS等で注意喚起を行い、安全対策を強化していきます。

問

猟友会の高齢化と担い手不足により、「公務員ハンター制度」の導入が注目されているが当村において検討されているか伺います。

今後、興味を持つ職員に対して銃所持・狩猟免許の取得支援を予定しています。その際、必ず「片品村猟友会」及び「片品村有害鳥獣実施隊」への加入を求め、有害鳥獣駆除に積極的に参加していただきます。

答（村長） 現在、片品村では役場職員2名が銃所持及び狩猟免許を保有しており、緊急時には「片品村有害鳥獣捕獲実施隊員」として他の猟友会員と共に出動しています。

また、猟友会員の高齢化に伴い、会員数の減少が課題となっております。片品村を守るためには猟友会員の協力が不可欠であり、職員の積極的な参加を後押ししていきたいと考えています。



ツキノワグマ出沒対応訓練の様子

テーマ

○村内に出没する熊対策について



常任委員会の活動

総務観光常任委員会

協議事項

所管事務について

問 土出グラウンド内の旧フェンスは、防火水槽が人工芝ネットとフェンスの間に位置しており、利用する際に支障が生じるため、フェンスの撤去についてお願いしているところだが、現在の進捗状況をお伺いします。

答（総務課長）

教育委員会の対応となりませんが、フェンスを全面撤去すると除雪の際にネットを破損するおそれがあるので、防火水槽の周辺の部分だけの撤去



土出グラウンド

を考えているとのことでした。地区の皆様と相談をさせていただきながら進めたいということです。

問 防犯灯および街路灯の各地区負担が大きくなっている現状を踏まえ、補助金を含む支援策の検討が必要と考えます。

まずは各地区の負担状況、設置されている防犯灯・街路灯の数についてお伺いします。

答（総務課長）

各地区の負担金額として総額で年間約490万円になります。

設置数は、防犯灯は村内全体で433基、街路灯は149基です。また、各地区で把握し切れていない部分があり、設置数は推計値と理解ください。

防犯灯の電気料金につきましては、地区で払っているところ、行政区で払っているところと区によって2つに分かれています。

問 尾瀬における近年の事故件数について、特にヘリコプター出動や救急車の出動回数などのデータがあればご提供

いただきたいと思います。また、村として今後の事故防止に向けた方針の必要性について、どのように認識されているのかお伺いします。

また、尾瀬ビジターセンターが山の鼻にあります。登山口付近に設置し、事前のレクチャーを行うことが望ましいと考えます。ご見解をお聞かせください。

答（むらづくり観光課長）

令和5年から令和7年までのヘリコプターおよび救急車の出動状況は左記のとおりです。

県警ヘリおよび防災ヘリの出動件数

令和5年：33件
令和6年：21件
令和7年：38件

救急出動（負傷者搬送件数）

令和5年：24件
令和6年：16件
令和7年：23件

尾瀬は天候の急変や標高差・気温差などのリスクが潜んでおり、更に広範囲で携帯電話が圏外となるため、遭難や

負傷が発生した際には通報や救助の手配が遅れやすいという構造的な課題があります。

近年の入山者増加や、装備や経験が十分でないハイカーや観光目的来訪者の増加で事故のリスクも高まっている可能性があります。これらのリスクを軽減するためには「事前の確かな情報提供と案内」が不可欠です。具体的には、主要な入山口やアクセス地点での適切なレクチャーや注意喚起を強化することが重要です。村としても、観光案内・情報提供を充実させ、安全安心な利用環境を整備し、関係機関と連携して取り組みを進めてまいりたいと考えています。



燧ヶ岳とヘリコプター

村民の暮らしを豊かに―― ――委員が慎重に討議しました

問 少子化及び人口減少と、人材確保は各業態を問わず深刻な問題となっていますが、

片品村職員採用受験者の本年度を含み過去（令和4年度、令和7年度）の一般受験者・社会経験者枠別に受験者数及び採用人数を含めお伺いします。

答（総務課長）

職員の採用試験の受験者等の人数については左記のとおりです。

令和7年の社会人枠につきましては現在12月17日の再試験の手続を行っているとありますので、公表は控えさせていただきます。

| | 令和7年 | | 令和6年 | | 令和5年 | | 令和4年 | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 受験者数 | 試験合格 | 受験者数 | 採用者数 | 受験者数 | 採用者数 | 受験者数 | 採用者数 |
| 一般事務 | 4 | 2 | 3 | 1 | 4 | 2 | 5 | 2 |
| 社会人枠 | 数名 | 未定 | 4 | 2 | 6 | 3 | 無し | 無し |

問 合宿・研修等支援事業2次募集の申込状況をお伺いします。

答（むらづくり観光課長）

片品村合宿・研修等支援事業の2次募集について、募集期間は終了しており、申込件数は38件、申請された補助金額は約226万円です。

今回の2次募集は抽選を行わず、申込者全員に交付決定通知を送付しました。

なお、今年度は1次募集と合わせ、現時点で163団体にに対し、総額約1,150万円の補助金を交付する見込みです。

問 オグナススキー場の営業予定は、パンフレットに記載されたとおり、今年度は12月25日から3月22日までとなっていますが、積雪状況に応じて3月末の最終日曜日まで営業の延長要望があります。今後、来期以降も3月最終日曜日まで営業できるよう、営業努力をお願いしたいと考えますが、見解をお聞かせください。

答（副村長）

迎えるシーズンの積雪状況をふまえ、要望に添うよう前



オグナススキー場

向きに判断してまいります。

来シーズン以降の営業期間については、地元の方や現場の方とも相談し、検討させていただきます。

問 9月から星野リゾートが運営を開始し、鳩待峠も賑わい始めているように感じますが、入山者数は増加しているのでしょうか。現時点での入山者数の状況についてお伺いします。

答（むらづくり観光課長）

尾瀬全体の入山者数は、昨年度から約1万5千人増加し、17万1,821人となりました。特に7月、8月の入山者が増加し、天候に恵まれ、ニッコ

ウキスゲの花が見頃だったこと、8月1日の「はとまちベイスCafe&Shop by 星野リゾート」開業も要因の一つと考えられます。9月1日に「LUCY尾瀬鳩待 by 星野リゾート」が開業しましたが、9月・10月の入山者数は昨年度並みでしたが、両施設の開業は好評を博しています。入山者数の推移は天候や花の影響を受けますが、星野リゾートの参入は今後さらに入山者数の増加を促す可能性があると考えています。



尾瀬を訪れるハイカー

（委員長 星野 吉弥）

常任委員会の活動

産業民教常任委員会

協議事項

所管事務について

問 日本遺産に認定された群馬県の「かかあ天下ーぐんまの絹物語」において、片品村が含まれているとのことですが、その具体的な内容について教えてください。



かかあ天下パンフレット

答 (教育委員会事務局長)

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、国の文化、伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定するものです。

この遺産は群馬県内の絹産業が発展した背景と、それに貢献した女性たちをテーマにしており、家計を支え、日本経済を支えた、まさに天下一

の上州の女性たち（かかあ天下）の歴史を伝えるだけでなく、地域の文化や生活の変遷をも伝えていきます。現在も絹産業の遺産を生かした観光活動や文化継承が行われており、この地域が大切にしている歴史が地域コミュニティに深く根付いていることが、日本遺産の認定を受ける一因となっています。

問 片品村では少子高齢化や後継者不足の影響で、歴史的価値のある建物や資料が解体などで失われる危機に直面しています。

国内の観光地では、歴史的な遺産が観光の魅力となっている例が多いことを考えると、今のうちに県や国に働きかけて、片品村の歴史的遺産を保存し、観光資源として活用する方法を探ってはいかかでしょうか。

答 (教育長)

今後は片品村にも文化財調査員という方がいらっしゃいますので、文化財調査員の方と相談しながら、また、観光部局とも連携しながら、教育委員会としても対応していきたいと考えております。

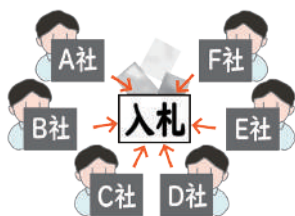
問 令和8年度から片品村も群馬県のぐんま電子入札共同システムを活用して電子入札を導入するとのことですが、片品村の事業において、どの業種まで電子入札で行うのかお伺いします。

答 (農林建設課長)

電子入札については、来年度からぐんま電子入札共同システムを活用し、基本的に全ての入札で電子入札を実施する予定です。

物品製造等の申請はすでに完了しており、建設コンサルタントや建設工事の募集も始まっています。

ただし、入札条件や特別な事情により、紙での入札が必要な場合もあるかもしれません。その詳細については、片品村総務課のホームページに掲載されていますのでご確認ください。



片品中学校 合唱発表会

問 少子化により児童・生徒の減少が進んでいます。令和8年度からの10年間、村づくりについての第5次総合計画を作成中ですが、小・中学校の統合についての記載がありません。

教育委員会として、今後の10年間をどの様に考えていますか。

まず、5年後（2030年）10年後（2035年）の児童・生徒数の推計をお伺いします。

答（教育委員会事務局長）

5年後の児童数は99名、生徒数は48名、合計147名です。

10年後の推計は、さまざまな要素が複合的に影響しますので、推計を出すことはできませんが、7年後（2032年）については、今年生まれる子供達の数を基に算出でき、児童数92名、生徒数47名、合計139名です。

問 以前、仮に小学校を中学校に統合する場合、10年〜15年位の年月がかかり、中学校に隣接する場所に小学校用地を確保しなければならず容易ではないとの説明がありました。

しかし2016年に導入された、義務教育学校という制度により、小中学校を統合し、1人の校長と1つの教職員組織で運営する形が可能となりました。

今年4月には川場村が義務教育学校を開校し、群馬県内で5校目となります。この制度をどのように把握し、今後の統合に対し、教育委員会の考えをお伺いします。

答（教育委員会事務局長）

児童・生徒数はやや減少傾向になりますが、統合がよいのかどうかを児童・生徒の保護者の方とよく協議しながら、今後統合計画の中の「教育環境の整備、重点施策」に「学校の在り方を検討していく」という文言を入れる検討を教育委員会でしています。

義務教育学校も視野に入れ検討を進めていきたいと考えています。

問 小川橋の整備が予定されていると聞いておりますが、今後、他に予定されている整備予定についてお伺いします。

答（農林建設課長）

現在、小川橋の補修工事に着手しています。橋梁を含む道路附属物に関しては、近年の豪雨や震災の影響を受け、国の指導により5年ごとの定期点検が義務づけられています。点検結果に基づき、片品村の橋梁長寿命化修繕計画を策定し、健全度3判定となった橋について、早期の補修を実施しています。

令和8年度には引き続き小川橋の補修を実施予定です。

また令和8年には3回目の定期点検が行われ、橋長15メートル以上の橋と、令和9年度には15メートル未満の橋の点検結果を踏まえ、交通量や使用頻度が高い橋を優先的に整備を考えていきます。したがって、小川橋の次にどの橋を整備するかは、点検結果を基に検討する予定です。



小川橋

問 村内に老人ホーム及びグループホーム等の建設希望を出している会社は、現在の段階でありますか。

村内に老人ホーム及びグループホーム等の建設希望を出している会社は、現在の段階でありますか。

答（保健福祉課長）

現在のところ、特別養護老人ホームやグループホームの建設に関する相談はいただいておりません。こうした施設を建設するには、県や村の指定が必要となりますが、現時点では正式な相談はありません。

問 今年、片品村内においても熊の出没が続く中で、捕獲活動を促進するために、熊の捕獲に関する奨励金の増額について検討する必要があるのではないかと考えています。この点について、今後の対応についてお伺いします。



答（農林建設課長）

片品村では、熊による被害防止のため捕獲1頭につき1万円の奨励金を支給しています。今年度は捕獲数が倍増している状況です。

全国的に報奨金が低すぎる、ハンター確保が困難、自治体予算だけでは賄い切れないとの訴えに対して、これまで以上の国費の増額を求めています。

また、自治体や猟友会と協力し、出沒防止策や住民の安全確保を進めています。片品村でも年度末に奨励金の増額を検討し、近隣自治体の状況を踏まえて算出したいと考えています。



ツキノワグマ出沒対応机上訓練の様子

（委員長 小林 政彦）